

プレコートボルトの 取扱いについて



スリーボンド商品の安全使用ガイドNo.2

プレコートボルトの取扱いについて

ネジ製品は機械、装置類の「部分と部分」との締結・固定の機能を果たす機械要素部品として欠くことのできないものです。

ネジを締め付けるだけで「もれ」と「ゆるみ」を防止するスリーボンドのプレコートボルトは、産業界の多くの分野で広くご

使用いただいております。

プレコートボルトについての「取扱い上の注意事項」等をまとめました。プレコートボルトを「安全に正しくお使いいただくため」に必ずこのガイドをお読みください。

人体への影響と注意事項

プレコートボルトは、プレコート剤（接着剤やシール剤）が、「ねじ」に塗布され乾燥した状態でお客様に納められますので、そのものが指や手に付着し、眼に入ったり、口に入ったりすることは少ないのですが、締め付け時に発生するカスの付着により「カブレ」が起こることがあります。

「カブレ」は医学的生理的現象で個人差が大きく、刺激の程度を表わす指標としてPII値（一次刺激指数）等がありますが、経験的に、PII値が必ずしもカブレ易さを正しく表わしているとは思われません。

このようなことからカブレを皆無にすることは難しく、いかにカブレないように取り扱うかが大切と思われます。何度か取り扱っているうちにカブレることもありますし、個人差も大きいので取扱い時には次の点をお守りください。

- ・「カブレやすい方」は扱わないでください。
- ・「塗布部への直接接触」や「カスの付着」を防止するために、不浸透性の手袋を使用してください。
- ・異常があった場合には、すぐに使用をやめて医師の診察を受けてください。

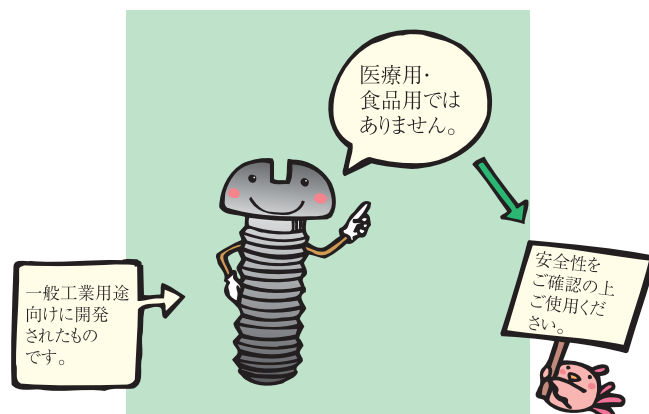
- ・指、手などに「カス」が付いた場合は、石鹸でよく洗ってください。取れない場合は、溶剤（シンナー）での拭き取りが有効ですが、手荒れにご注意ください。
- ・眼に入った場合は、15分位洗眼し、医師の手当を受けてください。
- ・口に入ってしまった場合は、吐き出すようにし、医師の手当を受けてください。



使用上の注意事項

(1) 医療用や食品用など特殊用途への使用

弊社の商品は、一般工業用途向けに開発されたものです。医療用機器や食品関連機器類への使用に対する安全性は確認しておりません。ご使用になる場合は、用途に適した事前の試験をされ、安全性をご確認の上ご使用ください。なお、医療用インプラント製品には絶対に使用しないでください。



(2) 誤った使用方法

以下の場合には、固着力やシール性が十分に発揮されません。

- ・ねじ部に異物（水分、油分、溶剤、ごみ等）が付着している。
- ・締め付けが不良（締め付け過ぎ、締め付け不足）である。
- ・クリアランスが大きすぎる。
- ・締め付け後の硬化時間が不十分である。
- ・締め付け時およびその後の気温が低すぎる。
- ・硬化阻害物質（水、油脂類、薬品類その他）が接触した。
- ・一度使用したプレコートボルトを再使用した。

(3) 相手の材質

プラスチックによっては、接着剤に触れると変質するものがありますので、事前に影響（割れ、溶解、膨潤、白化その他）の有無を確認してください。

(4) プレコート剤の種類

プレコートボルトには、「もれ」防止機能のみのプレコート剤であるシーロック、「もれ」と「ゆるみ」を防止するカプセルタイプのプレコート剤であるメック (MEC) があります。使用する条件をご検討の上、適切なプレコート剤を選択してください。

(5) 「カス」の付着と除去

衣服についてのプレコート剤を取りたい場合
締め込み時のカスであれば、簡単に手で払ったりエアードの除去ができますが、カスを手でこすったりしますとプレコート剤が繊維の間に入り込みますので、除去が困難になります。

ワークについてのプレコート剤を取りたい場合
カスはエアードで吹き飛ばしてください。カスにはプレコート剤（メック）のマイクロカプセルの潰れにより、接着剤を含んで湿ったものもあります。これは、時間がたつと固化して「吹き飛ばし」では除去できなくなります。この場合は、溶剤（シンナー）での拭き取りが有効です。拭き取ってもカスが強固に残っている場合は固化してしまっているので、物理的に剥ぎ取るしかありません。



(6) パーツフィーダーの使用

プレコートボルトどうしが触れる事により、カスが発生して、機械にこびり付き、パーツフィーダーが正常に動作しなくなることもあります。これを防ぐために、パーツフィーダーの掃除を日常的に行って、カスを取り除いておいてください。

保管や運搬に関する注意事項

プレコートボルトのうちメックは、高温高湿の雰囲気では保管されると、見た目には変化がなくても、カプセル内部のプレコート剤が固化します。固化すると、締め付けられないとか、締め付け後に固着力が得られないというトラブルが発生します。適切な保管条件が守られていなかったり、長い期間を経過しますと、プレコートボルトは本来の固着力やシール性を発揮しませんのでご注意ください。

(1) 異物の付着防止

水、溶剤、ゴミ、油等が付着しないようにしてください。例えば、ほこりの少ない場所で保管したり、プレコートボルトの箱に蓋やカバーをする等の注意が必要です。

(2) 衝突注意

運搬時のボルトどうしの強い衝突により皮膜が剥がれないようにしてください。特に、重量のあるボルトはご注意ください。

(3) 保管の条件

プレコートボルトの使用可能な期間は保管状態により変動致します。以下の条件は、プレコートボルトの基本的な保管方法です。できるだけこの条件を守られることをおすすめ致します。

「直射日光の当たらない0～25℃、湿度70%以下に保管し、汚染を避けて結露を防止した条件において保管してください。」
※上記の条件で保管できない場合は、以下の点に注意し、できるだけお早めにご使用ください。

- ・風通しの良い、できるだけ湿度の低い場所で保管してください。湿度が高い場所では、加工材料によって変質等が発生する可能性があります。
- ・直射日光、雨、ほこりが当たらない場所に保管してください。短期間であれば、25～40℃の温度下でも保管できます。ただし、長期間の高温保管は、加工材料によって変質等が発生する可能性があります。
- ・先入れ先出しを実施してください。



株式会社スリーボンド

平成14年1月 改訂3版発行
株式会社スリーボンド
〒193-8533 東京都八王子市狭間町1456
お客様相談室 ☎0120-56-1456